

こんにちは！

Cコミュニティ Sソーシャル Wワーカー です。



市社協が市内22地区に配置するコミュニティソーシャルワーカー（CSW）は、地域に出向いて生活に困りごとを抱える人の相談を受け、関係機関や住民と連携し、地域での支えあい活動が広がるお手伝いをしています。CSWが対応するケースは日々複雑化しており、他機関との協働が重要と考えています。本号では今年度実施した研修会について紹介します。研修には、障がいのある方に関わる相談機関の方々にもご参加いただきました。

～CSW研修を実施しました～

講義



『精神障がいについて実際のケースから考える』 講師 山田 龍さん（特定非営利活動法人けやきの会）



障がい者の就労支援や地域交流の場として、けん玉で遊べる駄菓子「もしかめや」を運営している山田さん。市社協の地域福祉活動計画策定委員会にも携わり、「一人ひとりが活躍できる多様な縁づくり」をキーワードに、実際に対応したケースからお話をいただきました。事業所がCSWと連携することで、「地域の中に居場所や関係者が増えていく＝縁がつながっていく」という視点が大きな学びとなりました。

事例検討

3つのグループに分かれて事例検討を行いました。

- ①本人の願いが捉えにくい外国籍の方のケース
- ②地域交流の場に参加した精神障がい者のケース
- ③医療受診が必要そうな高齢者のケース



②のケースをPICK UP！

CSW・障害者支援センター・障害者相談支援キー
ステーション・相模原市自立支援相談窓口職員が参加

<相談経過>

精神障がいがあるAさん。職場の人間関係をきっかけに「統合失調症」と診断され、治療中です。“就労に向けてボランティア活動をしたい”という相談がCSWに寄せられました。Aさんに農業の知識があることを本人の「強み」ととらえ、農作業活動のボランティアへつなぎました。農業ボランティアの皆さんの理解もあり、Aさんは明るく楽しく作業をしていました。



その後・・・

Aさんは、だんだんとボランティアから足が遠のいていきました。農業ボランティアの皆さんとも相談し、別のボランティア活動にも誘って様子を見ていました。その後、不安な気持ちが大きくなり、同居している家族に厳しく当たってしまうことがありました。



Aさんの強み（ストレングス）やニーズを共有し、どんなことができそうかグループワーク！

裏面へつづく…





「対象者の強み・ニーズ」をとことん考える

真面目な性格！家族と仲が良い！就労の意欲がある！行動力がある！近所の見守りがある！自然が好き！ゲームが好き！

グループワークからAさんのさらなる強みが共有されました。

では、希望していた農業ボランティアができ、家族や地域の方々からの見守りもあるなかで不安定になってしまったAさんをどうやって支えていこう？

「強み」と「課題」を整理

対人関係に緊張や疲れがあると不安定になりやすい側面に着目し、次のような意見が出ました。

- ・もう一度、Aさんの望みをゆっくり丁寧に聞く（再アセスメント）
- ・団体の活動ではなく個人で活動できるものを提案してみる
⇒コミュニケーションをあまり必要としない農業体験やeスポーツ
…ひとりの作業でも地域や社会とのつながりは持ち続けられる



「一人の課題」から「地域の課題」へ

Aさんの事例をヒントに、地域でどんな取り組みが必要か検討しました。

- ・障がいのある方が活用できるインフォーマルな資源が少ないかも！
- ・障がいのある方が地域で自分らしく活躍できる場がほしい！
- ・Aさんのような方が地域で生活していることをもっと知ってほしい！
- ・地域で関わった方々とAさんについて振り返る機会を持とう！

⇒障がいのある方の理解者を増やしたい！



一人ひとり強みも課題も違うけど、その強みや課題をお互いよく理解し合うことが大切なんだね！



<研修に参加した関係機関のみなさんの声>

- ・個別支援から地域支援につなげるCSWの動きは、ストレングス支援の視点を大切にしていると思いました。
- ・CSWとしての視点、行政職員としての視点、相談支援事業所としての視点を通して、多角的に支援者を捉えることは大切だと感じました。
- ・多機関支援においては、連携の目的をしっかりと共有することが重要だと感じました。
- ・多様な職種の方とともに、いろいろなアイデア出しができてよかったです。

コミュニティソーシャルワークの重要な機能として“連携と協働”があります。専門職間の連携はもとより、住民との協働も大切になります。その機能を基底として、ストレングスを基にした個別支援を行い、地域課題を導き出し、身近な人々や資源に働きかけながら、より良いまちづくりをめざす実践こそがCSWに求められます。

今回のCSW研修会は、日頃、担当エリアの中で限定された事例にしか触れられないCSWにとって、様々な取り組みを学び、幅広い分野の人々と関係性が築けたという点において、大変有意義な機会になったと思います。今後の活動に期待します。

《CSWアドバイザー・田園調布学園大学 隅河内 司 教授》

